

# 藤の花再生プロジェクト

ニュースレター 第1号 ~夏期作業講習会~

発行：西土木事務所  
令和2年7月31日

西土木事務所では、地名としてもゆかりのある藤の花が西区を美しく彩ることを目指し、「藤の花再生プロジェクト」として市民協働で藤棚一面に花を咲かせる取り組みを実施しています。

今年度は区内の8公園において、専門家の指導のもと、年間を通じて藤の生育状況を確認し、花後の管理や、剪定などの維持管理方法を学んでいきます。

6月23日(火)には浜松町公園で、藤棚のある地域の施設スタッフなども参加し、「夏期作業講習会」を実施しました。



参加して下さった西区内の施設スタッフの皆さん

- ・藤棚地区センター
- ・境之谷公園こどもログハウス
- ・西スポーツセンター
- ・西前小学校



2008年の浜松町公園の藤棚のようす

## ●夏期作業のポイント解説

①藤棚全体を見て、上部に厚みがある場合は剪定するラインを確認し枝を切ります。

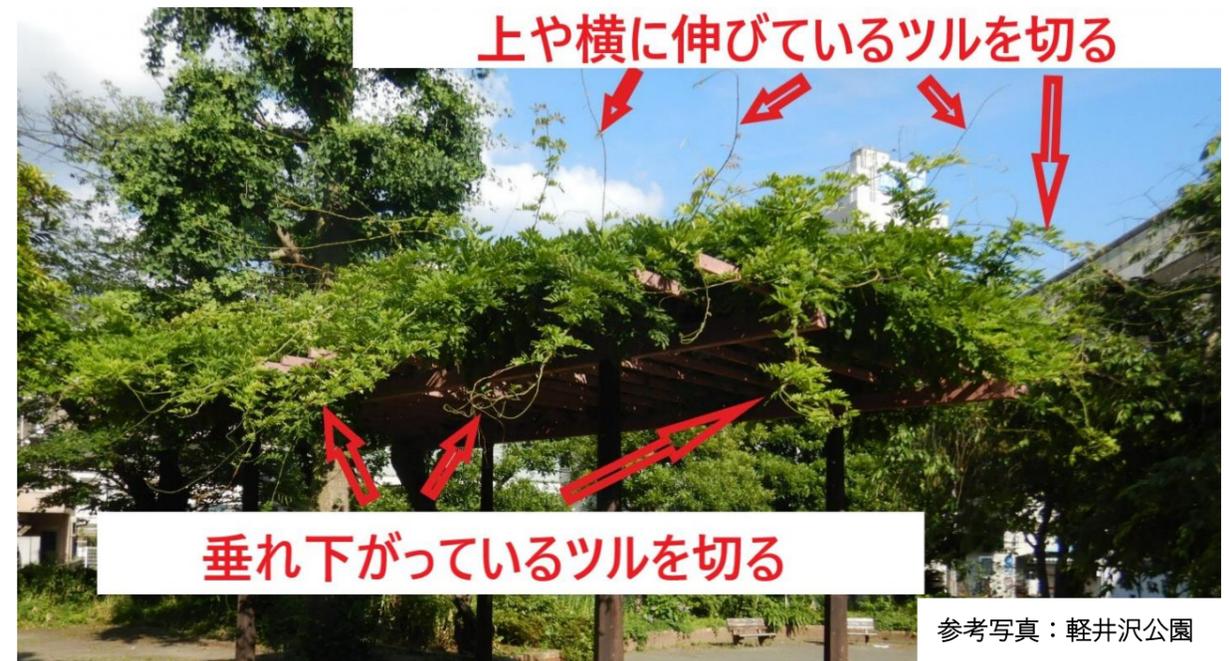
藤棚に厚みがあるので赤い線より上の枝は切る



全体的に葉に光が当たるように枝が重なっているところの枝を切る(透かし剪定)

参考写真：楠町公園

②藤棚全体を見て、上部や藤棚からはみ出ているツルを確認し剪定します。



上や横に伸びているツルを切る

垂れ下がっているツルを切る

参考写真：軽井沢公園

③剪定する際は、以下のポイントに気を付けて作業します。

- ・枯れている枝は根元から切る
- ・ツルを見分ける(去年伸びたツルは薄い茶色、今年伸びたツルは緑色)
- ・ツルは根元から2~4芽または、20~30cmくらいの位置で切る
- ・ツルや枝が重なっているときは勢いの良い方を残して切る

去年より前に伸びたツル(薄い茶色)



枯れている枝は根元から切る

ツルの根元から2~4芽、20cm~30cmで切る

今年伸びたツル(淡い緑色)

### ●ツル切りの見本剪定

今年新しく伸びたツル、古いツルを見比べて生育が良い方を残すことも大事！

まずは、伸びきって絡まったツルを、根元から約30センチのところまで切っていきます。

「枝や葉の付け根には葉芽や花芽があり、丸みのある花芽を残して剪定するのが良い。まだ夏の時期では見分けるのが難しいが、次回の冬の剪定では、花芽が形成されているので見分けられるようになる。」と教えていただきました。



### ●土木事務所職員への作業レクチャー

残りの7公園の作業を行う為に、土木事務所の職員がレクチャーを受けました。参加して下さった西区内の施設スタッフの皆様も、職員の作業を見学しメモを取っていました。



### ●幹の補修作業

アリなどの食害がひどい箇所は木くずなどを取り除いてきれいにし、根元の空洞部分をウレタン材で埋めました。



幹の部分は菌が入らないように消毒効果のあるカルスメイトやトップジンペーストなどの薬剤をヘラで伸ばし幹を保護します。



### ●施肥

肥料には、チッ素・リン酸・カリの順で1袋あたりの成分量（パーセント）が記載されています。花が咲き終わった後には「実肥（みごえ）」「花肥（はなごえ）」と言われる、リン酸成分の多い肥料を与えて終了です。講習会では粒状の化成肥料を使用しましたが、リン酸成分の多いものであれば液体の肥料も使用できます。



### ●作業前と作業後

伸びて絡まったツルや、厚みのある部分を剪定してスッキリした仕上がりになりました。藤棚を下から見上げたときに光が当たるくらいが良い剪定とのことでした。



作業前



作業後



作業後のようす

### ●今後の予定

令和2年7～8月 区内8公園の夏期作業

令和3年2～3月 冬期作業の講習会開催予定

西土木事務所ホームページや西区ツイッターにて随時情報発信してまいります。

○プロジェクトに関するお問い合わせ

西土木事務所

電話番号：045-242-1313